主な意見とその対応

第５回 草津市総合計画審議会

●は審議会での意見等

■は審議会後、事務局回答

（１）第５回草津市総合計画審議会の主な意見とその対応について

主な意見	対応
● 「まちづくりの基本は人です」とあり、後半において「人が学び育つ環境を」というような表現がされているが、人を育てるという従来の人づくりから人が育つような仕組みという視点があってもいいのではないだろうか。	● 基本的には、「育ち」の「環境」を「充実させる」という表現に含んでいると考えています。
● 「環境」という言葉を用いるときに、「自然環境」と「コミュニケーション的な環境」と色々あるため、言葉の使い分けをしていったらどうだろうか。	●次項「環境」の書き分けに伴って「仕組み」と表現します。

（２）第５次草津市総合計画検討資料【現況課題、基本構想（草案）】（資料２、補足資料２･３）

主な意見	対応
● 成熟型社会を迎えるにあたっては、そこに住む人のお互いの権利に対する意識のレベルアップが必要ではないだろうか。したがって、どこかへ市民、国民、人間として、そういう人権意識というものを高揚する、レベルアップするような取組みを記載して貰いたい。	■ 会長からも時代潮流の①②⑥を中心に、時代潮流として適切な表現を入れる必要があると指摘いただいており、時代潮流⑥で強調した表現で加えます。
● 世帯動向に関する表現がわかりにくい。「人口の伸び以上に世帯数が伸びることで世帯規模の縮小がさらに進み云々」と表現されているが、「今後も核家族や１人暮らしの世帯の増加などにより」としたほうがよいのではないだろうか。	■ 一般的に、核家族化は以前から進展していない、単身化・夫婦のみ化が進んでいる。ここでは人口と世帯数のみの推計であることから、根拠を示さずに「人口の伸び以上に世帯数が伸びることで」を削除いたします。
●「情報技術とコミュニケーション」において、個人のプライバシー保護の問題については述べられていないが、その点にはふれる必要はないのか。	■ 含めた記述といたします。
● 「主要な課題」にある「人口が集まるまち」ではなく、「人が集まるまち」ではないだろうか。	■ 「人が集まる」には、居住人口のニュアンスが含まれにくいので、居住人口、交流人口の両方のニュアンスを含むため、「人口が集積するまち」としたい。
● 「暮らしと活力」において、団塊世代が高齢期を迎えることがマイナスであるかのような印象を受ける。もう少し団塊の世代の方が希望を持っていく、持てる表現にはできないだろうか。	■ 配慮ある表現とします。

主な意見	対応
● 「地域経済と都市間連携」に農業に関して、総じて「第 6 次産業」という言葉で表現されているが、違和感がある。草津市全体から考えれば産業としての農業が成り立っていないが環境保全の観点からは大きな地域貢献をしている。将来的には、6 次産業という方向も必要かもしれないが、当面 10 年先のことを考えれば 1 次産業、小規模農家、地域の環境を守るという表現をこの計画のなかで謳っていただきたい。	■ 時代の潮流であり、ここでは草津農政について言及していないが、環境保全に貢献するなどの趣旨を含めた記述としたい。 ■ 「第 6 次産業」については、表現を工夫して対応いたします。
● 「成長型社会から成熟型社会への転換」について「転換」という表現が適切なのだろうか。草津市はある意味ではいろいろな機能が備わって、それぞれが自立した動きがある状態にあり、それを転換という形で一挙に別のところに行くというのは違うように思われる。もう少しなめらかに流れる方向はないのか。	■ 時代の潮流では、草津市に転換が必要であるということを示しているわけではない。 ■ 時代の潮流を踏まえて、成熟化に向かう心構えや準備が必要であることを課題としています。 ■ 人口フレームの文章表現について修正します。
● 草津市の学区の面積など一部の情報は、旧 6 村のときに調べられた面積のままであり、今のまちの状態あった情報基盤の見直しということが必要ではないだろうか。	■ 主要な課題⑧で趣旨を含んで記述します。 ■ 具体的内容は事業レベルと考えるので、基本計画のなかで踏まえたい。
● 位置と地勢、あるいは地域の特性に滋賀県のなかで気候が温暖、大阪への通勤が 1 時間以内という事を記載したほうがよい。	■ 気候については、地域の特性①に含んで記述いたします。 ■ 通勤時間距離については、限定的な表現が難しい（大阪だけ／大阪のどこ、など）と考えられるので、位置と地勢に都市間距離を示していることから、追加は避けたいと考えています。
● 高齢化率がパーセントだけで 13.9％から 23.3％と記述されているが、実数でみると倍になる。実数を示す方がよりインパクトがあるのではないだろうか。	■ 実数併記となるようにしたい。
● 「地域経営」がいろいろなところで出てくるが、この言葉の定義を示しておいた方がよいのではないだろうか。	■ 初出のところで語注を加えます。
● 「安全・安心と地域社会」のなかで災害、地震と治安だけでなく、大きな交通災害、交通事故等の問題についてふれる必要はないのだろうか。	■ 含めた記述とします。
● 「“歩いて暮らせる”まちを」のところでアンケートで非常に多かった生活道路の整備、幹線道路ではなくて細街路の整備についてはふれなくてもよいのか。	■ 含めた記述とします。

主な意見	対応
● 「地域経営への転換を」において、財政の問題と行政の問題別の項目が混在している。市の財政の問題をどのように課題として、今回は「主要な課題」のところに書き込むということで全体としてよいのか、それは適切なのか、もう少しきちっと書くべきではないか。	■ 「地域経営」は、行財政、市民主体などを一体的に捉えて成り立つものとして捉えるべきものと考えており、まちづくりの姿勢で記載していきたい。
● 「主要な課題」のなかで、地球環境に関することにふれておらず、載せる必要がある。それぞれの文章の中にはそういったことへの配慮が感じられるが、草津市自然環境が豊かなイメージがあり、それを地球環境に対しての貢献という意味ではかなりリードをしてやっていく必要がある。	■ 主要な課題③のなかで強調した表現を加えます。
● 「情報技術とコミュニケーション」において、「高度情報化は（中略）価値観へと結びついています」というのは、少し楽観すぎる表現が気になる。	■ 「互いに認め合う文化が浸透していくなかで」という条件を付帯した記述としているところでありますが、ご指摘を踏まえ、「価値観へと」を「価値観へも」としたい。
● ⑥多文化共生社会について、個人的には納得できるが、このような表現で書き切れるかどうか、全体の共通の理解になり得るかというのは、もう少し深める必要がある。	
● 将来に描くまちの姿ついては「こうあればいいな」と思うようなまちの姿であり、反対にいえばどなたも望まれるようなまちの姿である。草津市独自といわれるとインパクトは少ないが、妥当ではないだろうか。	■ 突出した内容に結びつくものがなければ、妥当だが平板な内容になる性格のものであるが、キャッチフレーズやリーディング・プロジェクトによって草津の独自性などをできるだけ表現していきたい。
● 30 年後の未来というのを考えると、持続可能型の農村系の社会というイメージと、もう一つドラえもん型という高度に科学的に都会型を目指すという二つの大きな方向性がある。草津の場合は、農村型と都会型の二つをバランスよく、一つの市のなかに混在させていくというのが草津らしいのではないかと思われる。	■ 調和重視の趣旨を含むよう記述していると考えています。
● キャッチフレーズについては、「人育ち、まち育つ・草津」あるいは「学び、つながり、こころざしある人を育てる」はどうだろうか。	■ 参考として、議論をお願いしたい。

主な意見	対応
● 「課題」イコール「キャッチフレーズ」となると、イメージづくりのなかでは少しわかりにくいのではないだろうか。	■ 課題は、あくまで将来を構想する際の「足場」として整理しており、それらの直接的な関係をきっちりと結びつけることは考えていないが、説明しやすさ／理解しやすさのため、キャッチフレーズとの主要な課題の対応関係の検証はしていきたいと考えています。
● 市は将来ビジョンによって自然をほどよく残し、いろいろな都市機能、便利さを備え、そういうことを鑑みて13万5,000人というのを出されていると思うが、以前に比べると緑が減少し、無計画、無造作に宅地化されているように思われる。	■ そうした状況を受けて、調和と秩序を求めるべきことなどを課題としています。
● 地球環境というよりは草津市の環境ということで、草津市で対応できるような何かコンパクトな形で計画のなかに盛り込んだらどうだろうか。	■ 主要な課題③のなかで強調した表現を加える。
● キャッチフレーズにある「協働による市民自治」については、もう少し丁寧に書き出して説明するということが必要ではないだろうか。また、上段にある「こころざし高く」「出会いに輝く」といった、キャッチフレーズのなかにこれを入れ込んでしまうのではなく、計画を推進する主体ところで、項目立てをする必要があるのかどうかも含めて検討すべきである。	■ まちづくりの基本方向とおなじレベルで「まちづくりの姿勢」として記述いたします。
● 「出会いに輝く」というのは10年目としてイメージしていかなければならないのですが、その状況が「“受け継いだもの”や“新たなもの”」という表記になっているが、守るべきものと、生み出す、創造ではないだろうか。	■ 異なるものが互い出会いふれあうことで、新しいものが生み出されていくという考えで整理をいたしております。